

第26回秩父宮記念スポーツ医・科学賞 奨励賞受賞者

<グループ名> 順天堂大学女性スポーツ研究センター
<代表者> 小笠原悦子氏

2011年に文部科学省委託事業である『チーム「ニッポン」マルチサポート事業（女性アスリート戦略的強化支援方策の調査研究）』を受託し、その調査研究の報告書として2013年に「女性アスリート戦略的強化支援方策レポート」を作成、その研究活動を基盤に2014年に順天堂大学に女性スポーツ研究センター（Japanese center for Research on Women in Sport）が開設され、国内初の女性スポーツの研究・支援拠点を設置した。

同センターは、「女性アスリートのコンディショニング」に関する研究活動の更なる推進、「女性リーダーの育成」と「スポーツ参加促進」の方策提案、女児から高齢女性まですべての年代を対象とした「健康増進とパフォーマンス向上」に寄与する研究活動の実施という3つを目指し、常に新たなテーマへの挑戦と数多くの研究を行い、その成果を発表している。

また、2014年には、順天堂大学医学部附属順天堂医院および浦安病院の2カ所で、女性アスリートが健康で長期的に高い競技力を継続できるよう医学的側面から総合的に支援する日本初の女性アスリート外来を開設した。

医学とスポーツの研究・実践に長年取り組み、着実に実績を挙げ、コンディション管理に役立つ女性アスリートダイアリー、オンラインヘルスチェックツールであるPPE for female athletes、女性アスリートが陥りやすい3主徴であるFAT（Female Athlete Triad）のスクリーニングシート等プロダクトの作成、女性リーダー・コーチアカデミーの開催や、女性アスリートに対する研修等の啓発活動を積極的に実施した。

そして、女性アスリートが直面しやすい、身体的・生理的な課題、心理・社会的な課題、組織・環境的な課題を解決し、女性スポーツ研究センターが目指す3つの果たすべき使命の実現には、女性指導者育成が重要であり、ロールモデルを増やす必要があると考えた。NCAA（全米大学競技スポーツ協会）の女性コーチ育成システムに着目し、日本向けにアレンジした「女性リーダー・コーチアカデミー」を開催している。

このアカデミーでは、指導者に必要な内容を集約し、コンディショニングに関するプログラムにおいては女性アスリートの三主徴やスポーツ栄養の正確な知識を、リーダーシップに関する講義では、人を導く理論と実践を学び、近年スポーツ界で注目されているLGBTQに関するテーマも取り上げるなど指導者としてハイレベルな内容を提供している。現在、修了生は275名となり、それぞれのフィールドで活躍している。

このように、女性アスリートへの科学的サポートに関する視点が国内では未成熟な中で、同センターが行ってきた活動は、研究成果をもとに研修会や講習会・講演会において知見を提供し、競技力向上のみならず、女性とスポーツの在り方への洞察や男女共同参画にも好影響を与えており、これまでの功績と今後の更なる発展を期待して奨励賞を授与する。